



# 市民と野党で新しい政権を

# だれもが安心してくらせる夕張に!



明けまして  
おめでとう  
です  
今年も  
まことに  
よろしく  
お願い  
します

夕張市認定こども園＝幼児受け入れ4月オープンへ

災害にあっても安心して住み続けられるまちを!  
子ども・若者・すべての住民たちに明るい未来を!

日本共産党夕張市委員会  
「民報ゆうばり」編集委員会

**全日本建設交通一般労働組合**

委員長 野呂 義則  
書記長 安部 秀一

夕張市末広一丁目107  
(建交労事務所内)

**全日本年金者組合夕張支部**

執行委員長 滝口 光男  
書記長 筒井 勇治

夕張市末広一丁目107  
(建交労事務所内)

**新日本婦人の会夕張支部**

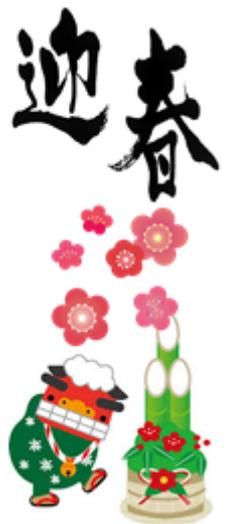
支部長 久世 公子  
事務局長 滝口 洋子

夕張市清水沢清陵町12  
(夕張厚生企業組合内)

**夕張労働組合総連合**

議長 筒井 勇治  
事務局長 熊谷 泰昌

夕張市末広一丁目107  
(建交労事務所内)





# 新春に よよせせて



日本共産党参議院議員



紙 智子

非核の政府つくるとき

新年おめでとうございませう。昨年は新型コロナウイルスの困難な中でも、歩みを止めずリモート会議や電話等で奮闘されたことに、心から敬意を表します。今年は政治を転換する年です。市民と野党の共闘と比例50万票で議席を奪還し政権交代を！

一人親家族への支援、少人数学級の早期実現、消費税5パーセント減税などの取り組みをさらに広げ、コロナからのちと暮らしを守りましょう。

核兵器禁止条約の発効の年、非核の政府をつくりましょう。

日本共産党参議院議員



岩 淵 友

国民の苦難軽減のために

新型コロナウイルスから国民のいのちとくらし、生業を守るため、今こそ政治が役割を果たすときです。国民の苦難軽減のために引き続きみなさんと力を合わせます。

今年はずっと総選挙があります。国民に自助を押し付ける管政権を終わらせて政権交代を。比例は日本共産党と大きく広げて、道民の願い実現に奮闘する島山和也前衆議院議員を今度こそ国会へ。

野党連合政権実現のためみなさんと手を結んで全力を尽くす決意です。

日本共産党前衆議院議員



島 山 和也

本気で変える一年に

「いっしょに働いてきた仲間を守りたい」と中小ホテルの社長さん。「医療が崩壊する」との言葉を、どうして菅首相は受け止めないの」と道難病連の増田代表。いのちと健康、商売や雇用を守るために誰もが真剣です。

国民を守る気がない政府なら、本気で政権交代しなければ。核兵器禁止条約が示すように、粘り強く声を上げれば必ず政治は変えられます。

北海道の比例議席奪還へ、私も全力をあげます。今年もよろしくお願ひします。

## 「まがいの桂子の 総選挙の年」



日本共産党 夕張市議  
くまがい桂子

「パパ活」という言葉から分かるように、これは女性が男性に利用されている。男性優位の社会があるにも関わらず、そのこぼれ落ちた女性が売春をした。「それって自己責任じゃないの？」とか「自己責任だよ」と言ってしまう。でもこれは、不当に男性優位の社会というものを、正当化することではない。きちんとその問題の根源を見つめて、どうやれば私たちは平等に生きられるのか、というのを考える。そこでしか、スタートラインに立つことはできない。(作家 石井光太さん)

「『死にたい』とか『消えたい』とか、『つらい』っていうつぶやきもあるし。『死にたい』で検索すると、回答受付中だけで3,043件。今までの解決済みも入れると33万件。適切な場所に相談できるように、誘導できる人たちがSNSにどんどん入っていったらいいんじゃないか。」(そだちの樹代表 吉川彩香さん)

災害でもパンデミックでも、どんな時でも「健康と暮らしが最優先で守られる」「平等に生きられる社会」「人権が最優先の政治」を求め、声を上げ、広く広く声を集めて、政治を変えましょう！

昨年「年明けから、新型コロナウイルス」一色の年となりました。小中学校の休校や、大学ではオンラインでの講義が常態化したこと、秋になって、学生のアルバイトや保護者の収入の減少で、年度末には三人に一人が休学・退学を決めているというショッキングなニュースが報道されました。

年末には、さらにシヨックな：  
●日本には、困窮した女性に「体売ってこい」という社会状況があります。本人の選択だといわれ、そこでの女性の苦しみはないことになっていきます。(10代女子を支えるCo-aba代表 仁藤夢乃さん 12月22日 しんぶん赤旗)

●売春客待ち疑い、61人逮捕 大阪「泉の広場」17〜64歳 2020年12月5日 日経新聞

●12月5日放送のNHKクローズアップ現代では、『「パパ活」の闇 コロナ禍で追いつめられる女性たち』—対人サービスの職場に女性が集中して、非正規の人数が多かったこと、夜の街に働きに出ようと思っても、飲食店はほとんど営業できておらず、直接風俗の世界に入ってしまう。